

新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
ヴェルディ

リゴレット

Rigoletto

2023年5月18日(木)~6月3日(土)

会場:新国立劇場オペラパレス 2023年3月11日(土)前売開始



ビルバオ・オペラ公演より

真摯な愛が招く父娘の悲劇 ヴェルディの人気作『リゴレット』が新制作で登場！

ヴェルディのオペラの中でも1位、2位の人気を争う傑作『リゴレット』。富と権力にものを言わせ女から女へと遊び歩くマントヴァ公爵、公爵に媚びを売る一方で娘を真摯に愛する父でもある道化師リゴレット、その娘で純粹一途なジルダを軸に、愛、呪い、復讐の悲劇が繰り広げられます。オペラファンでなくてもつい口をついて出してしまう有名曲「女心の歌」をはじめ、「慕わしき人の名は」「悪魔め、鬼め！」など数々の名アリアも満載。ヴェルディならではの力強く情熱的な音楽が、清らかな純愛と娘を弄ばれた父の悲劇を劇的に描き、観る者の心を揺さぶります。

フロンターリ、トロシャン、リヴァス！人気沸騰のスター歌手が勢揃い！

注目のリゴレット役には、オペラ界で最も重要なバリトン歌手で、日本でも大人気のスター、ロベルト・フロンターリが登場。悲劇のヒロインとなるジルダには、19年に『ドン・パスクワレ』ノリーナに急遽出演し、日本のオペラファンを瞬時に魅了した新世代のコラトゥーラ・ソプラノ、ハスミック・トロシャンがカムバック。遊び人マントヴァ公爵には、軽やかな声でヨーロッパの主要劇場を席卷するライジングスター、イヴァン・アヨン・リヴァスが新国立劇場デビューを飾ります。指揮はイタリア・オペラ界の重鎮マウリツィオ・ベニーニ。オペラファンには見逃せない顔ぶれです。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木 綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

ヴェルディの人気作『リゴレット』。待望の上演をエミリオ・サージ演出の新制作で。

ヴェルディ中期の傑作にして人気作『リゴレット』。演劇と音楽の融合を目指していたヴェルディが円熟を迎えた時期の傑作で、深い絆で結ばれた父娘の悲劇が、演劇的な緊張感と劇的效果満点の音楽で綴られます。遊び人マントヴァ公爵に仕える道化師リゴレットは、公爵と廷臣たちが遊興を尽くす裏社会で媚びを売る生活。他ならぬ娘が公爵に弄ばれ、公爵への復讐を決意するものの、公爵を愛してしまった娘は殺し屋の前に身代わりとなって身を差し出す——。ヒット曲「女心の歌」をはじめ、「慕わしき人の名は」「悪魔め、鬼め！」など数々の名アリアで彩られる一方、美しい重唱が多いのも『リゴレット』の魅力。なかでも第3幕の四重唱「美しい恋の乙女よ」は、オペラ史上最も美しい四重唱と言われています。ヴェルディによるオペラ化に不満を抱いていた原作者ヴィクトル・ユーゴーも、初演でこの四重唱に魅了され、一夜にしてヴェルディファンになったというエピソードも残っています。

エミリオ・サージ演出のプロダクションはビルバオ・オペラとリスボン・サン・カルロス歌劇場の共同制作で初演後、バレンシアのソフィア王妃芸術宮殿でも上演され、現代的な視点で作品の演劇性と登場人物の孤独とにクローズアップし、大成功を収めたものです。

難役リゴレットにフロンターリ、娘ジルダにトロシヤン、マントヴァ公爵にリヴァス。

人気沸騰のスター歌手が勢揃い

道化師リゴレットは公爵におもねる卑屈さと傲慢さ、冷酷さと娘への慈愛、恐れと怒りの深い表現が求められる難役。世界で最も重要なバリトン歌手であり、日本でも人気のスター、ロベルト・フロンターリのリゴレットに、オペラファンの期待が募ります。ジルダには美声と高度なテクニック、天性の表現力を併せ持つ美貌のスター、ハスミック・トロシヤンが登場。新国立劇場へは19年『ドン・パスクワレ』ノリーナで日本のオペラファンを瞬く間に魅了して以来の登場です。



マントヴァ公爵のイヴァン・アヨン・リヴァスは、軽やかな声でヨーロッパ中の歌劇場を席巻する、ペルー出身の大型新星テノール。既にローマ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ミラノ・スカラ座などへ次々デビューし活躍しながら、21年プラシド・ドミンゴのオペリアコンペティションを制し、22年にはインターナショナル・オペラアワードで「Rising Talents」にノミネートされるなど、評価が留まるところなく上昇中のライジングスターです。

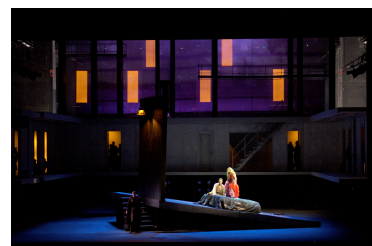
殺し屋スパラフチーレに妻屋秀和、リゴレットを呪うモンテローネ伯爵に須藤慎吾、女声陣には森山京子、清水華澄ら日本屈指の歌手たちも贅沢に集結。指揮にはイタリア・オペラ界の重鎮マウリツィオ・ベニーニが、新国立劇場には98年『セビリアの理髪師』以来25年ぶり、待望の登場となります。オペラファンには絶対に見逃せない強力な布陣で、ヴェルディの大悲劇をお届けします。

<「リゴレット」あらすじ>

【第1幕】マントヴァ公爵の宮廷。ある夜会にモンテローネ伯爵が乱入し、娘を陵辱したマントヴァ公爵を大声で非難する。道化師リゴレットは嘲笑するが、激昂したモンテローネ伯爵からマントヴァ公爵と一緒に呪いの言葉を投げられ、狼狽する。不具のリゴレットの生き甲斐は娘のジルダだった。彼は清純な愛娘が汚されるのを恐れ、教会に行く以外は外出も許さなかった。だが、学生に身をやつたマントヴァ公爵が教会でジルダを見初め、隠れ家に忍び込んで娘の心を奪ってしまう。一方、公爵の威を借るリゴレットに我慢のならない廷臣達は、ジルダを彼の情婦と思い込み、鬱憤晴らしに彼女を誘拐する。

【第2幕】ジルダが何者かにさらわれて公爵が気落ちしていると、廷臣たちがジルダを誘拐してくるので公爵は喜ぶ。リゴレットは平静を装って宮廷に参内し、落ち着きなく娘の痕跡を探す。その姿を、廷臣たちがあざ笑う。やがて娘が公爵の寝室にいることを知ったりリゴレットは、怒り、泣く。そして、動転したジルダから公爵の毒牙にかかったことを聞き、公爵を呪い、復讐を誓う。

【第3幕】殺し屋スパラフチーレの居酒屋。リゴレットはジルダと外に佇み、公爵が士官に変装して居酒屋で女と戯れる様子を見ている。居酒屋の女は殺し屋の妹マッダレーナだった。ジルダは公爵の本性を知るが恋心は消えない。娘を先に行かせたリゴレットはスパラフチーレに公爵殺しを依頼する。殺し屋が準備を始めると公爵に惚れた妹マッダレーナが反対し、口論の末「身代わりを殺して報酬だけせしめよう」と決着する。それを立ち聞きしていたジルダは身代わりになると決意、居酒屋に入り、スパラフチーレの刃を受ける。真夜中が過ぎ、殺し屋から死体の袋を受け取ったリゴレットは、そこに瀕死の愛娘ジルダの姿を目にする。ジルダは身勝手を父に詫びながら息絶え、リゴレットは呪いの恐ろしさに打ちのめされる。



<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】マウリツィオ・ベニーニ

Maurizio BENINI

メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界の主要歌劇場、音楽祭で活躍する指揮者。ボローニャ歌劇場『ブルスキーノ氏』でデビュー後、ミラノ・スカラ座に1992年『湖上の美人』でデビュー。スカラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、英国ロイヤルオペラ、エディンバラフェスティバルなどで活躍。ボローニャ歌劇場管弦楽団、サンチャゴ・ムニシパル劇場首席指揮者、ナポリ・サンカルロ歌劇場首席客演指揮者などを歴任。最近では、メトロポリタン歌劇場『ルチア』『ドン・パスクワレ』『ロベルト・デヴェリユー』『セビリアの理髪師』『清教徒』『セミラーミデ』『マノン』、アムステルダムで『イル・トロヴァトーレ』、英国ロイヤルオペラ『ナブッコ』『椿姫』『シチリアの晩鐘』、チューリヒ歌劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、テアトロ・レアル『イル・トロヴァトーレ』『海賊』、モンテカルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』『ファルスタッフ』、パリ・オペラ座『イル・トロヴァトーレ』、オランダ国立オペラ『セビリアの理髪師』『ナブッコ』、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、ブエノスアイレス・コロソ歌劇場『リゴレット』、チューリヒ歌劇場『夢遊病の女』を指揮。新国立劇場には98年『セビリアの理髪師』以来の登場となる。



【演出】エミリオ・サージ

Emilio SAGI

哲学、文学、音楽学博士、オビエド名誉市民。1980年オビエドで『椿姫』を演出してデビュー。90～99年マドリッド・サルスエラ劇場監督、2001～05年マドリッド・テアトロ・レアル芸術監督、08年～15年ビルバオ・アリアガ劇場芸術監督。バロック期のサルスエラから現代オペラまで手がけ、ボローニャ歌劇場、フェニーチェ歌劇場、ミラノ・スカラ座、パリ・オデオン座、ローマ歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、フィラデルフィア・オペラ、ヒューストン・グランド・オペラ、ウィーン・フォルクスオーパー、アン・デア・ウィーン劇場、イスラエル・オペラ、ジュネーヴ大劇場、ストラスブール・ラン歌劇場、ボルドー歌劇場、マリインスキー劇場、香港オペラフェスティバル、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ザルツブルク音楽祭、オビエド・カンポアモール劇場、ビルバオ・アリアガ劇場、ソフィア王妃芸術宮殿、パルセロナ・リセウ大劇場、テアトロ・レアルなどの著名劇場や音楽祭で活躍。カンポアモール・リリカル・アワード、「Ópera Actual」誌最優秀スペイン人演出家賞、アルゼンチン批評家賞などを受賞。20年スペイン政府芸術功労章受章。スペインのオペラ劇場連盟「Opera XXI」榮譽賞を受賞。新国立劇場では『運命の力』を演出している。



【リゴレット】ロベルト・フロンターリ

Roberto FRONTALI

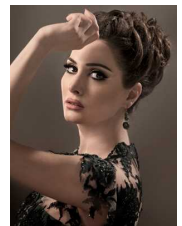
世界で最も重要なバリトン歌手のひとり。キャリア初期はベルカント、その後ヴェルディ、最近ではプッチーニやヴェリズモをレパートリーとする。90年代初頭にメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座へデビュー。特に重要な出演に、アバド指揮『セビリアの理髪師』、ミラノ・スカラ座で10年に渡りムーティと共演した『椿姫』『ファルスタッフ』『ドン・パスクワレ』、メータ指揮『運命の力』『ルチア』『ファルスタッフ』、ザクセン州立歌劇場『ドン・カルロ』、フェニーチェ歌劇場『リゴレット』などがある。最近の特筆すべき出演に、ウィーン国立歌劇場『アドリアーナ・ルクヴルール』ミシヨネ、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル『リゴレット』、ロサンゼルス・オペラ、ローザンヌ歌劇場『ファルスタッフ』、サンフランシスコ・オペラ『西部の娘』ジャック・ランス、ローマ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、サンフランシスコ・オペラ、フェニーチェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、新国立劇場『トスカ』スカルピア、ナポリ・サンカルロ歌劇場、トリノ州立歌劇場『オテロ』イアーゴ、メトロポリタン歌劇場『シラノ・ド・ベルジュラック』ド・ギッシュ伯爵、パリ・オペラ座『マクベス』タイトルロール、フィレンツェ歌劇場『ペレアスとメリザンド』ゴローなどがある。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』フィガロ、02年『ルチア』エンリーコ、15年『トスカ』スカルピアに出演している。



【ジルダ】ハスミック・トロシヤン

Hasmik TOROSYAN

アルメニア、エレバン生まれ。当地で学び、数々のコンクールで優勝した後、2011年よりアルメニア国立アカデミーオペラ・バレエA.スペンディアリヤン劇場で活躍。グレイス・バンブリー、テレサ・ベルガンサ、ミレッラ・フレニ、ファン・ディエゴ・フロレスなどのマスタークラスに参加したのち、13年にはグラインドボーン音楽祭にツアー公演でデビュー、14年、15年にはロッシーニ・オペラ・フェスティバルに出演した。15年にはフランダース・オペラ、17年にはボローニャ歌劇場、フィレンツェ五月音楽祭、18年にはハンブルク州立歌劇場、シャンゼリゼ劇場、19年にナポリ・サンカルロ歌劇場、トリノ州立歌劇場など次々と主要な劇場にデビューを果たす。レパートリーは『イタリアのトルコ人』フィオリツラ、『新聞』リゼット、『夢遊病の女』アミーナ、『連隊の娘』マリー、『愛の妙薬』アディーナなどのベルカントの諸役を中心とし、ほかに『魔笛』夜の女王、『イドメネオ』イーリア、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどでも活躍している。最近では、トリノ州立歌劇場『ラ・ボエーム』ムゼッタ、サレルノ・ヴェルディ歌劇場『リゴレット』ジルダ、カリアリ歌劇場『連隊の娘』マリー、アルメニア国立歌劇場『椿姫』ヴィオレッタ、ブエノスアイレス・コロソ歌劇場『真珠採り』レイラなどに出演。新国立劇場へは、19年『ドン・パスクワレ』ノリーナでデビューし、超絶技巧と天性の表現力で話題をさらった。



【マントヴァ公爵】イヴァン・アヨン・リヴァス

Iván AYÓN RIVAS

1993年ペルー生まれのテノール。ペルーの国立音楽院で学んだ後、ファン・ディエゴ・フローレス、エルネスト・バラシオらの指導を受ける。2013年にペルーのオペラコンクールで第2位となり、ペルーで多くのリサイタルに出演。14年、ドイツのルートヴィヒスハーフェンでのファン・ディエゴ・フローレスのチャリティー・ガラ(ルイージ指揮スカラ座フィルハーモニー管弦楽団)でデビュー。15年に第3回エッタ・リミティ賞受賞後、トリノ王立歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ(16年)、レヅジョ・エミーリアほかで『椿姫』アルフレード(16~17年)、トリノ王立歌劇場『ファルスタッフ』フェントン(17年)に出演。18年にはフェニーチェ歌劇場とローマ歌劇場で『ラ・ボエーム』ロドルフォ、フェニーチェ歌劇場、マテラータ音楽祭『椿姫』アルフレード、フィレンツェ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ローマ歌劇場『リゴレット』マントヴァ公爵と主要歌劇場に次々と出演。最近ではフェニーチェ歌劇場『椿姫』、ローマ歌劇場『カブレレーティ家とモンテッキ家』『リゴレット』、ラス・パルマス・オペラ、バーリ・ペトルツェッリ歌劇場『愛の妙薬』、ポリシヨイ劇場、トリノ王立劇場『ラ・ボエーム』、フェニーチェ歌劇場『ファウスト』『リゴレット』、ミラノ・スカラ座『マクベス』、ワロン歌劇場『リゴレット』、リセウ大劇場『三部作』リヌッチョ、オーストラリア・オペラ『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに出演している。新国立劇場初登場。

**【スパラフチーレ】妻屋秀和**

TSUMAYA Hidekazu

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994~2001年ライブツィヒ歌劇場、02年~11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイーダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉢蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンド、『タンホイザー』領主ヘルマン、『トゥーランドット』ティムールなど出演多数。20/21シーズン『夏の夜の夢』クインス、『フィガロの結婚』バルトロ、『イオランタ』ルネ、『ドン・カルロ』フィリッポ二世、『カルメン』スニガに出演。21/22シーズンは『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ハンス・フォルツ、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『ばらの騎士』オックス男爵、『ペレアスとメリザンド』アルケルに出演。今シーズンは『タンホイザー』領主ヘルマンに出演しており、『アイーダ』ランフィスにも出演予定。令和3年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞。二期会会員。

**【マッドレーナ】清水華澄**

SHIMIZU Kasumi

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員、ロームミュージックファンデーション在外研究員としてイタリアに留学。07年第6回カルロ・ゴメス国際コンクール第2位。二期会『仮面舞踏会』ウルリカ、『アイーダ』アムネリス、『フィガロの結婚』マルチェッリーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツツア、『ドン・カルロ』エポリ公女、『イル・トロヴァトーレ』アズチェーナ、『ローエングリン』オルトルート、『サロメ』ヘロディアスなどで高い評価を得る。18年札幌文化芸術劇場ほかのグランドオペラ共同制作『アイーダ』アムネリスも好評を博す。ヴェルディ『レクイエム』、マーラー「復活」「千人の交響曲」、ドヴォルザーク『スターバト・マーテル』などのコンサートのソリストとしての活躍も著しい。新国立劇場では『ワルキューレ』グリムゲルデ、『神々の黄昏』第二のノルン、『チェネントラ』ティーズベ、『オテロ』エミーリア、『ラインの黄金』フロスヒルデ、『アンドレア・シェニエ』ベルシ、高校生のためのオペラ鑑賞教室『カルメン』タイトルロール、『アイーダ』(コンサート形式)アムネリスなどに出演。19年の『紫苑物語』ではうつろ姫に出演、内外のメディアから絶賛された。22/23シーズンは『ボリス・ゴドゥノフ』女主人にも出演。二期会会員。

**【モンテローネ伯爵】須藤慎吾**

SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊声楽コンクール1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位(イタリア)などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリョなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では19年『椿姫』ジェルモンで大成功を収めたほか、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピアなどに出演。21年には『カルメン』高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演でエスカミーリョに出演した。22/23シーズンは『ラ・ボエーム』マルチェッロにも出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。



新国立劇場 2022/2023 シーズンオペラ
 ジュゼッペ・ヴェルディ
リゴレット
 Rigoletto / Giuseppe Verdi
 全3幕〈イタリア語上演/日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】 2023年5月18日(木)19:00/21日(日)14:00/25日(木)14:00/28日(日)14:00/31日(水)14:00/
 6月3日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】 S:27,500円・A:22,000円・B:15,400円・C:8,800円・D:5,500円・Z:1,650円

【前売開始】 2023年3月11日(土)

※予定上演時間 2時間30分

指揮	マウリツィオ・ベニーニ	リゴレット.....	ロベルト・フロンターリ
Conductor	Maurizio BENINI	Rigoletto	Roberto FRONTALI
演出	エミリオ・サージ	ジルダ	ハスマック・トロシヤン
Production	Emilio SAGI	Gilda	Hasmik TOROSYAN
美術	リカルド・サンチェス・クエルダ	マントヴァ公爵	イヴァン・アヨン・リヴァス
Set Design	Ricardo SÁNCHEZ CUERDA	Il Duca di Mantova	Iván AYÓN RIVAS
衣裳	ミゲル・クレスピ	スパラフチーレ	妻屋秀和
Costume Design	Miguel CRESPI	Sparafucile	TSUMAYA Hidekazu
照明	エドゥアルド・ブラーボ	マッダレーナ	清水華澄
Lighting Design	Eduardo BRAVO	Maddalena	SHIMIZU Kasumi
振付	ヌリア・カステホン	モンテローネ伯爵	須藤慎吾
Choreographer	Nuria CASTEJÓN	Il Conte di Monterone	SUDO Shingo
		ジョヴァンナ	森山京子
		Giovanna	MORIYAMA Kyoko
		マルッロ	友清 崇
		Marullo	TOMOKIYO Takashi
		ボルサ	升島唯博
		Borsa	MASUJIMA Tadahiro
		チェプラノー伯爵	吉川健一
		Il Conte di Ceprano	YOSHIKAWA Kenichi
		チェプラノー伯爵夫人	佐藤路子
		La Contessa di Ceprano	SATO Michiko
		小姓	前川依子
		Paggio	MAEKAWA Yoriko
		牢番	高橋正尚
		Un usciere	TAKAHASHI Masanao
合唱指揮	三澤洋史		
Chorus Master	MISAWA Hirofumi		
合唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団		
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

Production of ABAO Bilbao Opera

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/Rigoletto/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)
 新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* Z席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。*未就学児入場不可。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

※新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

本公演の告知では、ビルバオ・オペラ公演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



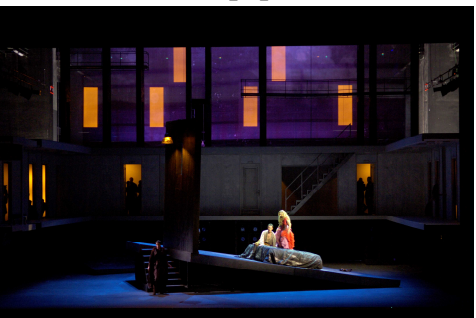
【7】



【8】



【9】



【10】

ビルバオ・オペラ公演より